

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪府中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL:0120-094-777(通話料無料)
公告の方法	当社は以下のURLで電子公告を行います。 http://www.shizuki.co.jp/ ※事故その他のやむをえない事由により、電子公告を行うことができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第2部 大阪証券取引所 市場第2部

【ご注意】

- 株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

『指月(シヅキ)』社名の由来

『指月』の社名は、創業者山本重雄が長州（現在の山口県）の出身であること、また幕末長州藩の一家老として藩政改革で功を成した村田清風が先祖にあたることから、毛利家歴代の居城である萩城（指月城）から名をお借りしたのが命名の由来です。



株式会社 指月電機製作所

本社 〒662-0867 兵庫県西宮市大社町10番45号
TEL:0798-74-5821 FAX:0798-73-0807



証券コード 6994
東証二部・大証二部

第85期 第2四半期報告書

株主通信

平成24年4月1日～平成24年9月30日

特集：シヅキの強み

高機能を活かし、幅広い分野で活躍

インバータ化のニーズにマッチする、 シヅキのフィルムコンデンサ

トピックス：シヅキの強さを支える工場

#05 日本国内のみならず海外からの引き合いも増加

研究開発機能を強化し、大きく伸びる「秋田指月」



株式会社 指月電機製作所

<http://www.shizuki.co.jp/>

厳しい状況が続くも、研究開発に注力し、 小型、軽量、ローコストという永遠の課題に挑む。

減収を反省しつつ、 新商品を市場に投下し打開を図る

当第2四半期は、世界経済が不安定であり、国内においても長引く円高、震災復興も遅れており、厳しい状況が続きました。結果、3.7%ながらも減収になったことはおおいに反省すべき点です。中でも、鈍化していた中国の鉄道インフラ事業の復活に期待をしていますが、思うような回復は見られず電鉄車両分野が大きくダウンしました。リーマンショック後の立ち上がりが好調であったために電鉄車両分野への期待が大きすぎた感があります。

また、自動車の国内生産の減少により自動車用コンデンサが厳しい状況に陥りました。一方で自動車用でもEV・HEV用は好調に推移していますし、エアコン用アクティブフィルタも前期に引き続き堅調に売上を伸ばしています。アクティブフィルタにおいては、機器単体ごとの対策を必要とするお客様のニーズにマッチしたことが好結果につながったと言えます。この流れを受けて、小型・小容量の瞬時電圧低下補償装置（以下、瞬低補償装置）を開発し、10月に発売開始しました。これまでは大型の瞬低補償装置を用いて、施設単位でカバーすることが主流でしたが、この小型の瞬低補償装置の発売により機器単位でカバーできるようになります。発売後の出足は順調です。今回、「SHIZUKI TECHNAVI」でも詳しく取り

上げていますので、ぜひご一読ください。

このように予想よりも厳しかった分野と、好調だった分野、そして今後に期待が高まる分野があったというのが率直な感想です。下期に向けて、その期待を実益につなげられるよう努力してまいります。

研究開発設備の充実を図り、 永遠のテーマを追求する

厳しい中ですが、将来に向けて研究開発費を増やし、秋田指月、岡山指月、九州指月などの研究開発設備を充実させ、物づくりのメーカーにとって永遠のテーマである、小型、軽量、ローコストを追求します。また、当社は電気を蓄える、放出するというコンデンサに付加価値を付けて、お客様仕様にモジュール化し、システム化して提供していますが、研究開発設備の充実は、こうした「お客様仕様の物づくり」の能力向上にもつながります。そして、そこで培った技術を活かし、下期は産業機器分野、EV・HEV分野に加えて家電メーカー各社の“白物家電回帰”の動きにも迅速に対応したいと考えています。

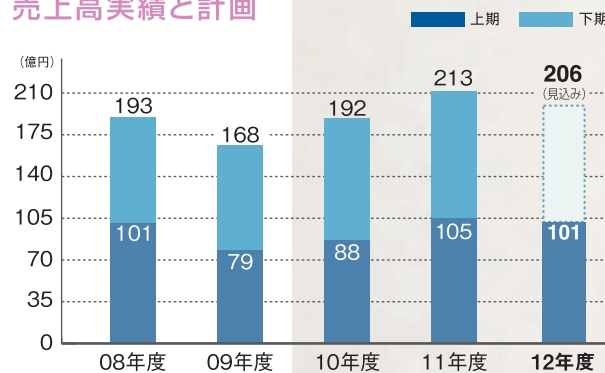


挨拶など基本を徹底し、 社員の意識改革につなげる

第2四半期の結果を受けて、AIM2013についても再考しなければならないと考えています。そして、その一方で今年度からのテーマである「変える」を実現するため、社員の意識改革に取り組んでいます。例えば、お客様への挨拶。これまでも当社は徹底して取り組んできましたが、今一度、その基本に立ち戻るべく原点共有として取り組んでいます。現在、ひとり一人の社員の意識が変わり、会社全体の雰囲気が変わってきています。心のこもったご挨拶をすることが、お客様第一の考働につながります。こうした取り組みは、すぐに数字に表れないにしても、後々の結果につながってくると考えています。株主の皆様には、そうした取り組みも踏まえて、長い目で見守っていただき、これからもご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表執行役社長
伊藤 薫

売上高実績と計画





高機能を活かし、幅広い分野で活躍

インバータ化のニーズにマッチする、シツキのフィルムコンデンサ

近年、安全性、省エネ・環境保全で注目を浴びるインバータ。
その時代の流れに、シツキのフィルムコンデンサがお役に立っています。

インバータを効率よく運転させて、商品や機器をより高度に制御しようとする、運転周波数を高くしたり、高電圧化する必要があります。フィルムコンデンサは、電気的な損失が少なく、高い周波数や高電圧に耐えられるなど電気的な特性に優れています。

特に、産業分野においては、長時間、連続運転する機会が多く、機器のメンテナンスロスが少なく、安定稼働するコンデンサが必要とされます。中でも、フィルムコンデンサは長寿命なため、保守しにくい場所に設置される装置(例えば風力発電装置)や、運転を止めにくい装置(例えば産業生産設備)などに向いており、さまざまな分野への採用が広がっています。

さらに、幾層にもなる電極パターンが金属蒸着されたフィルムには、「自己回復作用」と「ヒューズ機能(保安機能)」があるため、信頼性や安全性に優れ、新幹線や電鉄車両、自動車、エレベータなど高い信頼性が求められる製品に数多く利用されています。

フィルムコンデンサの特長

高周波耐用

高耐電圧

長寿命

高信頼性

高信頼性の理由

自己回復作用

電極フィルムに絶縁破壊が生じても欠陥部の金属皮膜を瞬時に消失させて、欠陥部の周囲と絶縁を回復する優れた機能があります。

ヒューズ機能(保安機能)

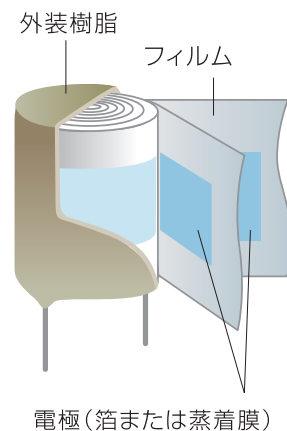
電極皮膜を多数の小電極群に分割することで、ヒューズ機能を持たせることができます。異常な電流や電圧が印加された場合、このヒューズが働き発煙や発火、破裂を防止します。



シツキの技術力

このようにさまざまな特性を持つフィルムコンデンサを主軸に、シツキでは創業以来、フィルムコンデンサに関わる沢山の技術を蓄積しています。

<コンデンサの構造例>



蒸着技術

さまざまな素材に多彩な金属を真空蒸着する技術を保有しています。

電極パターン設計

必要な仕様に合わせて最適な電極パターンを設計します。

スリット技術

極薄のフィルムロールを任意の幅に高精度に連続断裁することが可能です。

インバータって何?

「インバータ」とは、直流電力を交流電力に変える電力変換回路です。家庭でも工場やビルなどでも交流モーターが使われています。この交流モーターの回転をインバータで制御すると、電力損失を低減できます。インバータは、直流に変換された電気を交流に変えます。その際、電圧と周波数を任意に変えることで、機器を最適に制御します。今ではエアコンなどの家電機器はもちろん、電車やエレベータなどさまざまな分野で使われています。

インバータの活躍の場

- 電車 出発、停止時の衝撃が少なくなり、乗り心地が向上します。
- エレベータ 上昇や下降時の衝撃が少なくなり、また、停止時にフロアとの位置ずれがなくなります。
- エアコン 必要に応じて急速運転をしたり、また、モーターを細かく制御し、快適な温度をキープできます。

トピックス

指月の強さを支える工場

#05 2011年度は単体で最高の売上高を達成 研究開発機能を強化し、 大きく伸びる「秋田指月」。

日本国内のみならず海外からの引き合いも増加

秋田指月は、「家電機器用コンデンサ」を中心に、現在は「EV、HEV用コンデンサ」も生産しています。2011年度は、東日本大震災が発生し、厳しい状況も続きましたが、過去最高の売上高を達成できました。

2011年度を振り返ってみると、4月、5月は震災の影響で計画を大幅に下回りましたが、6月から回復し、7、8、9月は好調でした。10月にタイの洪水、欧州の経済不安の影響を受け、再び苦しい状況に見舞われましたが、インバータ用、海外向け家電機器用コンデンサが順調な伸びを示したため、この結果につながりました。

インバータ用、海外向け家電機器用コンデンサ以外にも、フィルタ用、自動車のDC-DCコンバータ用が好調で、たくさん引き合いがあります。また、海外からの引き合いが増えているのも特長です。

研究開発にも注力EV、HEV用コンデンサも誕生

2006年12月に研究開発棟が完成。研究開発に注力するようになって6年が経過しました。お客様から依頼を受け、商品の調査や解析を行ったり、お客様が来社され、一緒に調査、研究開発したりすることが年々増加しています。この研究開発棟からEV、HEV用のコンデンサが誕生しました。



また、秋田指月では従業員から「改善提案」を募集しています。この取り組みは2001年から実施しており、11年以上の実績があります。現在は200件以上／月の提案があり、各部から選ばれた審査員が審査し、金賞、銀賞、銅賞、鉄賞、参加賞を決めています。改善効果の大きさによってはダイヤモンド賞、プラチナ賞も用意しています。さらに、受賞者の提案内容は、社内報で紹介しています。こうした取り組みは、従業員の改善意識の向上につながっており、当社の物づくりを支えています。



研究開発棟で調査や解析をしている様子



「改善提案」の表彰

労働環境が優良であると認められました

先日、秋田県より「労働基準協会会長表彰」を受けました。安全衛生がしっかりしている企業、従業員を大切にしている企業に贈られる賞です。これからも評価され続けるよう法令の遵守に努めます。



SHIZUKI TECHNAVI

瞬低からお客様の大切な資産を守る

瞬低補償装置のラインアップがさらに充実!

半導体や太陽光パネルなどを製造する高度な製造装置は、雷や風雪による一瞬の電圧低下(以下、瞬低)にとっても敏感です。瞬低により稼働中のラインが停止した場合の損失は大きく、納期遅れなど二次的な被害も発生します。

そうした瞬低の問題から、お客様の加工中の製品や製造装置を守るのが「瞬低補償装置」です。瞬低補償装置は、電圧低下を検知すると瞬時に電力をバックアップして、製造装置の停止を防ぎます。

シヅキは、この「瞬低補償装置」の発売を2001年から開始。

2007年には「第52回澁澤賞」「第21回中日産業技術賞 特別奨励賞」を受賞しました。

なるほど
シヅキの
技術力!

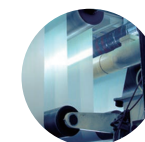


シヅキの「瞬低補償装置」はこんなところで活躍



半導体製造

ウエハに部品を多数焼き付ける製造工程であり、ウエハの大型化に伴い瞬低は更に大きな問題に



フィルム製造

高機能材料としてのフィルムは、巻き取り装置のテンション異常で、フィルムが断裂、生産停止



製薬

瞬低により、製造工場内の空調内圧によるホコリ遮断装置が機能低下、薬品が不良品に

お客様のニーズに合わせて瞬低補償装置のラインアップを充実!

従来は、工場全体や製造ラインといった大きな規模での瞬低対策が求められ、大型・大容量の装置が主流でした。しかし、高額で設置時間もかかるため、簡単に導入することができません。近年は「必要なところに、必要なだけ」というように、装置単体に設置できる小型・小容量の瞬低補償装置へのニーズが高まっています。そうしたニーズにお応えするため、シヅキは今年の10月に、小型で小容量、分散投資に最適な「SAG-Backupシリーズ」を新発売。これからもお客様のさまざまなニーズに応える商品を開発し続けます。



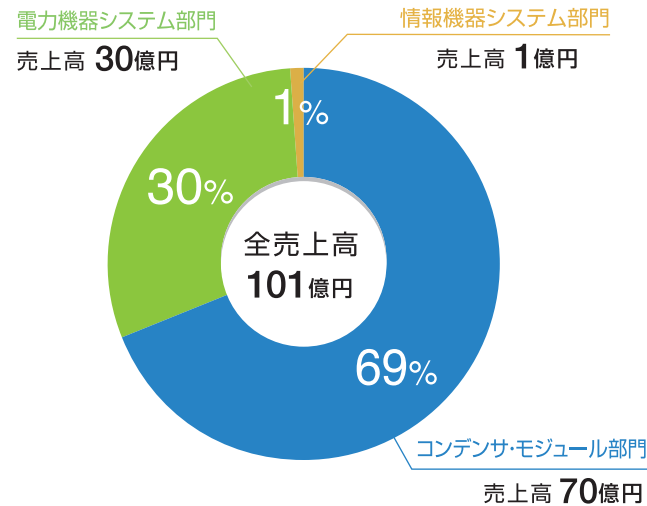
SAG-Backupシリーズ
小型・小容量タイプ
(写真左より定格容量7.5kVA、15kVA、30kVA)

事業概要と展望

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、欧州の財政金融危機の再燃、米国の景気回復の遅れ、中国の経済成長減速、アジア地域における経済成長の鈍化、また国内においては長引く円高傾向、株式市場低迷など、依然として景気下押しリスクが継続し、先行き不透明感が払拭されない状況で推移いたしました。このような経営環境のもと、当社グループは、新商品の販売開始、新市場開拓、拡販活動のほか、原価低減、経費削減を全社一丸となって取り組んでまいりました。今後も引き続きお客様のニーズにあった商品開発、サービスの提供につとめてまいります。

株主の皆様におかれましては、ますますのご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

部門別売上高比率（2012年9月）



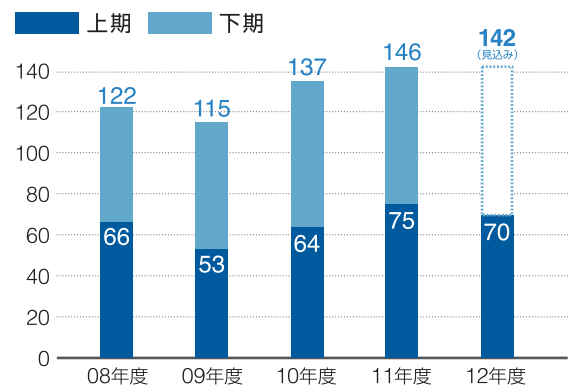
売上高
構成比率
69%

コンデンサ・モジュール部門

空調機器分野は好調に推移し大幅に伸長いたしました。世界的な鉄道事業投資の低迷により電鉄車両用コンデンサは低調に推移いたしました。一方で、EV・HEV用コンデンサは前期に引き続き大きく伸長しました。新しい車種に搭載されるコンデンサの引き合いが増加しており、さらに売上は拡大するものと思われま。今後も当社が得意とする「多品種少量」や「変種変量」の対応で、家電機器用、自動車雑防用コンデンサや、新しい分野で活躍しているパワエレ用コンデンサ、電気二重層コンデンサにいたるまで、開発・販売に力を注いでいきます。



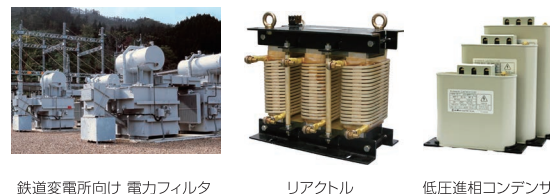
コンデンサ・モジュール部門売上高 (単位:億円)



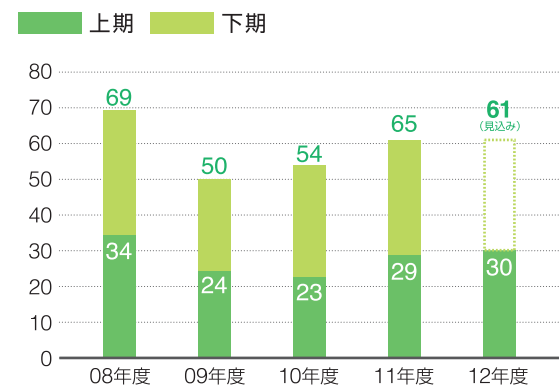
売上高
構成比率
30%

電力機器システム部門

省エネ・電力品質改善機器などが堅調に推移し、伸長いたしました。なかでも、瞬低補償装置の小型・小容量タイプの販売が好調でした。電力負荷の比較的小さいラインや設備などに設置する装置の需要が高まっています。このような市場のニーズにお応えするために小型・小容量のラインアップをさらに強化していきます。その他、電力機器市場では、高調波・電圧変動や力率改善などの電力品質・効率改善商品を、鉄道機器市場では、レール電位抑制・軌道短絡防止などの安全対策商品を中心に、今後も引き続き販売増強を図ってまいります。



電力機器システム部門売上高 (単位:億円)



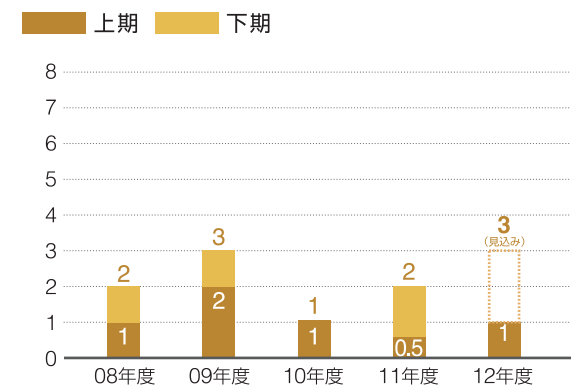
売上高
構成比率
1%

情報機器システム部門

前期に引き続き、主力商品である「鉄道用表示装置」の売上が堅調に推移し伸長いたしました。今後は、開発中のTFT液晶パネルとフルカラーLED表示デバイス技術を活用した「バス車内表示装置」、「バス停留所表示装置」などのラインアップと、国内主要空港のリニューアルによる「空港用表示装置」の対応を進めてまいります。また、継続している鉄道発車標リブレース需要に対しては、多国語表示機能を展開しお客様のニーズに応じてまいります。



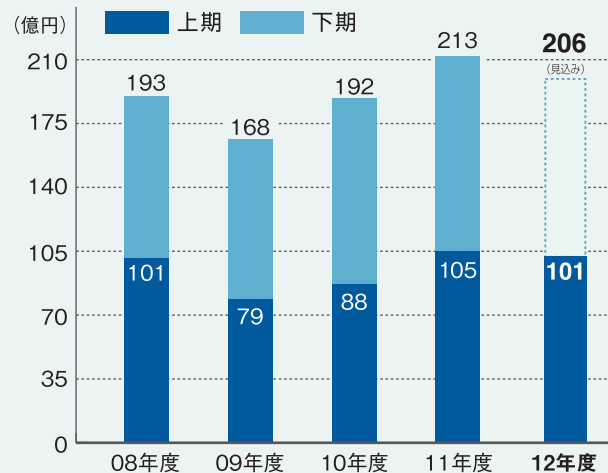
情報機器システム部門売上高 (単位:億円)



財務ハイライト(連結)

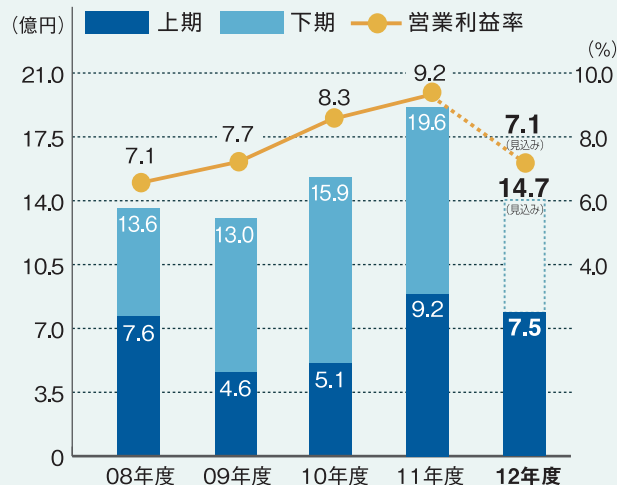
売上高

上期は前年同期比3.7%の減収、
下期は前年並の売上高確保を見込む



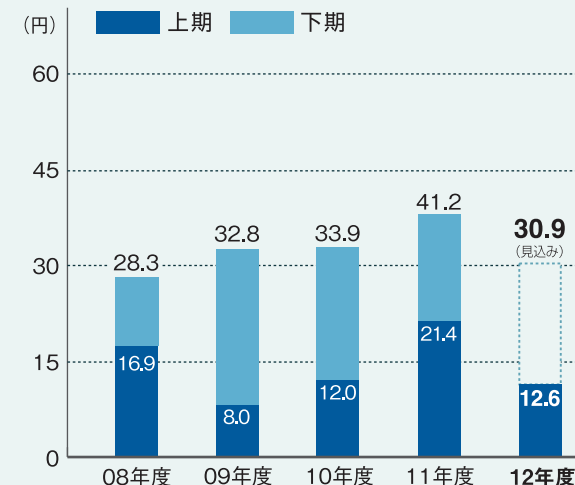
営業利益・営業利益率

前年同期比18.4%減益ながら堅固な営業利益水準確保



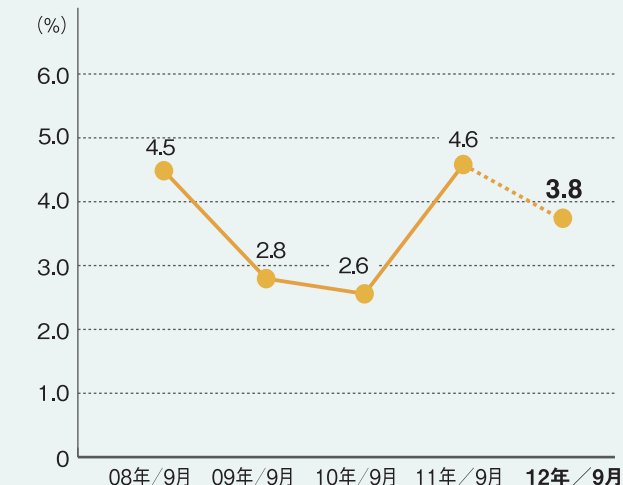
1株当たり利益 (EPS)

通期で30円台を維持、底固く推移



総資産経常利益率 (ROA)

設備投資を充実しつつ、総資産増はミニмумに対応



POINT

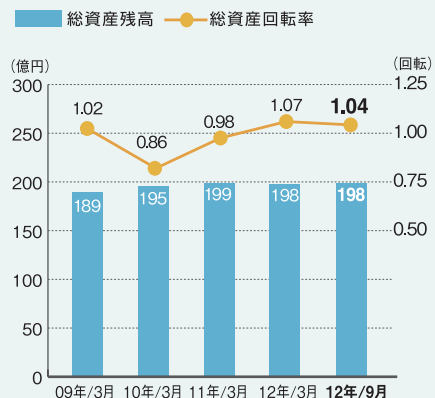
上期売上は101億円確保

需要回復の遅れや景気の下振れ懸念が強いなか、当社の強みを活かして、下期は前年下期並の売上高を目指す。

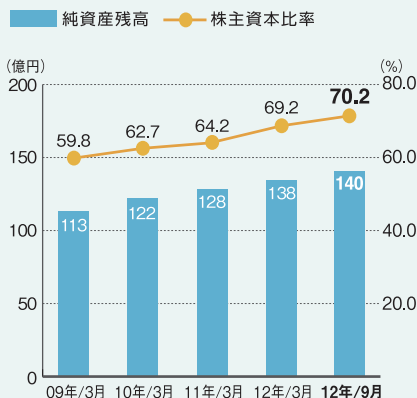
収益性、健全性ともに堅調

強固な財務体質は更に進展。安定した収益確保により中間配当は3円50銭を実施。

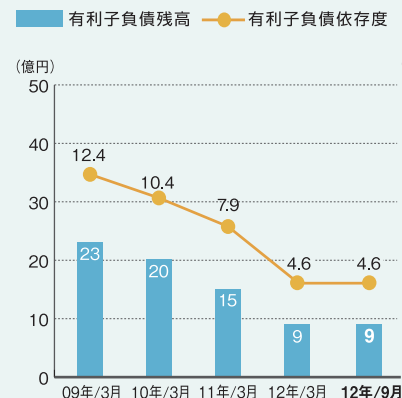
総資産残高・総資産回転率



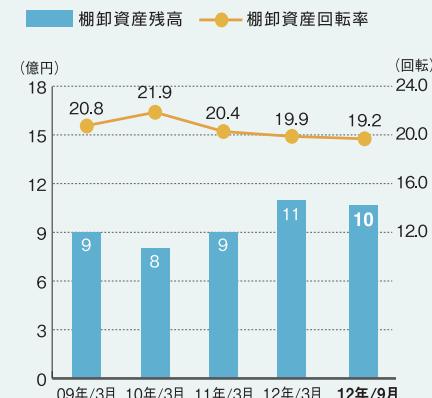
純資産残高・株主資本比率



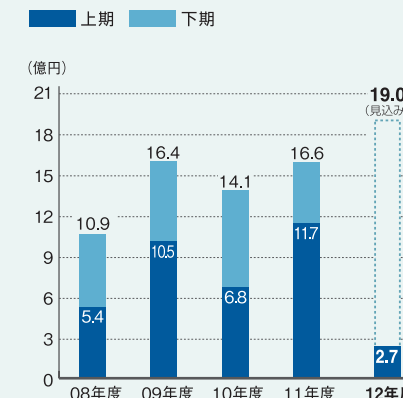
有利子負債残高・有利子負債依存度



棚卸資産残高・棚卸資産回転率



設備投資額



連結財務諸表

(注) 十百万円の位を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	第84期第2四半期 平成23年9月30日現在	第85期第2四半期 平成24年9月30日現在
資産の部		
流動資産	8,101	8,622
現金及び預金	2,499	2,842
受取手形・売掛金	4,105	4,418
棚卸資産	1,065	1,071
その他資産	431	290
貸倒引当金	△0	△1
固定資産	11,605	11,203
有形固定資産	10,341	9,892
建物及び構築物	3,139	3,022
機械装置及び運搬具	1,841	2,095
土地	4,391	4,346
建設仮勘定	682	160
その他	286	267
無形固定資産	61	49
投資その他の資産	1,202	1,261
投資有価証券	599	736
長期貸付金	1	1
その他	605	528
貸倒引当金	△4	△4
資産合計	19,706	19,826

科目	第84期第2四半期 平成23年9月30日現在	第85期第2四半期 平成24年9月30日現在
負債の部		
流動負債	4,133	3,730
買掛金	773	774
短期借入金	1,304	903
未払費用	1,043	989
未払法人税等	323	302
引当金	466	416
その他	222	344
固定負債	2,350	2,115
退職給付引当金	916	863
その他	1,434	1,251
負債合計	6,484	5,846
純資産の部		
株主資本	13,095	13,723
資本金	5,001	5,001
資本剰余金	3,308	3,308
利益剰余金	5,901	6,640
自己株式	△1,116	△1,227
その他の包括利益累計額	90	190
その他有価証券評価差額金	98	60
土地再評価差額金	852	997
為替換算調整勘定	△860	△867
少数株主持分	36	65
純資産合計	13,222	13,979
負債純資産合計	19,706	19,826

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	第84期第2四半期 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	第85期第2四半期 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで
売上高	10,471	10,079
売上原価	7,348	7,043
売上総利益	3,122	3,036
販売費及び一般管理費	2,197	2,281
営業利益	924	754
営業外収益	89	121
営業外費用	97	131
経常利益	916	744
特別利益	51	—
特別損失	16	—
税金等調整前四半期純利益	952	744
法人税、住民税及び事業税	310	296
法人税等調整額	5	63
少数株主損益調整前四半期純利益	636	384
少数株主利益	6	18
四半期純利益	629	366

(注) 十百万円の位を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

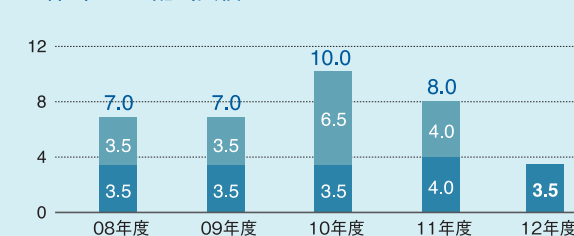
(単位:百万円)

科目	第84期第2四半期 平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで	第85期第2四半期 平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	640	639
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,112	△334
財務活動によるキャッシュ・フロー	△430	△130
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6	△2
現金及び現金同等物の増減額	△909	171
現金及び現金同等物の期首残高	3,408	2,670
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,499	2,842

当期中間配当金 1株当たり3円50銭

1. 中間配当金 1株当たり3円50銭
2. 支払対象者 平成24年9月30日最終の株主名簿に記載
または記録された株主または登録株式質権者
3. 支払開始日 平成24年11月26日(月)

1株当たりの配当実績 (単位:円)



株式の状況

会社が発行する株式の総数	128,503,000株
発行済株式の総数	33,061,003株
当中間期末株主数	3,945名

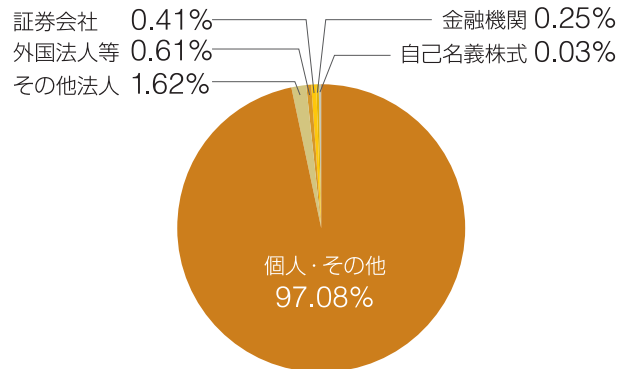
大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
三菱電機株式会社	6,980	21.1
ゴールドマンサックス インターナショナル	4,382	13.2
株式会社りそな銀行	1,299	3.9
株式会社みなと銀行	925	2.7
指月協友持株会	897	2.7
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社	714	2.1
株式会社村田製作所	571	1.7
株式会社ノーリツ	560	1.6
指月電機製作所自社株投資会	535	1.6
東京海上日動火災保険株式会社	383	1.1

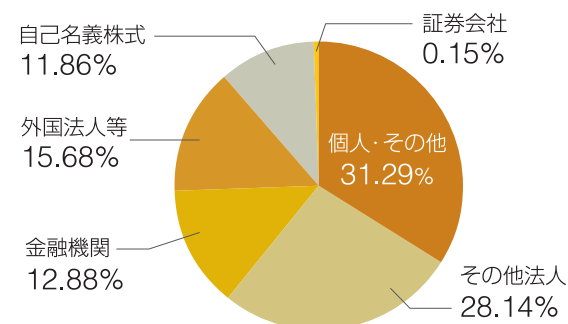
株価チャート



所有者別株主数分布状況



所有者別株式数分布状況



会社概要

商号	株式会社指月電機製作所
英文名称	SHIZUKI ELECTRIC COMPANY INC.
本店所在地	〒662-0867 兵庫県西宮市大社町10番45号 TEL:0798-74-5821
ホームページ	http://www.shizuki.co.jp/
創業年月日	昭和14年3月10日
設立年月日	昭和22年9月1日
資本金	5,001,745,595円
グループ人員数	1,348名
主要取扱業務	<ul style="list-style-type: none"> ●コンデンサ及び関連機器・装置 ●電力機器・装置 ●情報機器・装置 の製造販売
営業拠点	<ul style="list-style-type: none"> ●東京支社 ●東京支店／関西支店／中部支店 ●札幌営業所／仙台営業所／日立営業所 広島営業所／福岡営業所 ●マレーシア連絡事務所／韓国連絡事務所

生産子会社

社名	資本金	出資比率(%)
九州指月株式会社(福岡県)	490,000千円	100.0
秋田指月株式会社(秋田県)	300,000千円	100.0
岡山指月株式会社(岡山県)	200,000千円	100.0

役員

取締役	
取締役会長	梶川 泰彦*
取締役	伊藤 薫*
取締役	木佐木 正文
取締役	川本 十七生
取締役	池田 義範*
取締役	増田 幹登*
取締役	鳥川 光春*

執行役

代表執行役会長	梶川 泰彦
代表執行役社長	伊藤 薫
専務執行役	足達 信章
常務執行役	志方 正一
常務執行役	谷口 義裕
執行役	矢部 久博
執行役	小田 敦
執行役	山本 則彦
執行役	光谷 信雅
執行役	友松 哲也
執行役	藤原 健吾

販売・生産子会社

社名	資本金	出資比率(%)
アメリカンシヅキ株式会社 (米国 ネブラスカ州)	17,600千米ドル	100.0
指月獅子起(上海)貿易有限公司	250千米ドル	100.0
タイ指月電機株式会社(タイ バンコク)	33,000千バーツ	70.0